FENWAL

2022 | 12月期 決算説明資料

（2022年1月1日～2022年12月31日）

2023年2月22日

日本フェンオール株式会社

（東証スタンダード：6870）

Contents

はじめに ---------- 2
1. 2022年 12月期　決算概要 ---------- 5
セグメント別実績 ---------- 8
2. 2023年度 通期連結業績見通し ---------- 15
2023年度 配当・株主還元について ---------- 18
3. 新中期経営計画についての考え方 ---------- 20
4. Appendix ---------- 25

はじめに

経営方針

FENWAL

ビジョン

お客様の期待を超える「ものづくり」のベストパートナー

経営基本方針

「基本の徹底」と「変化への挑戦」

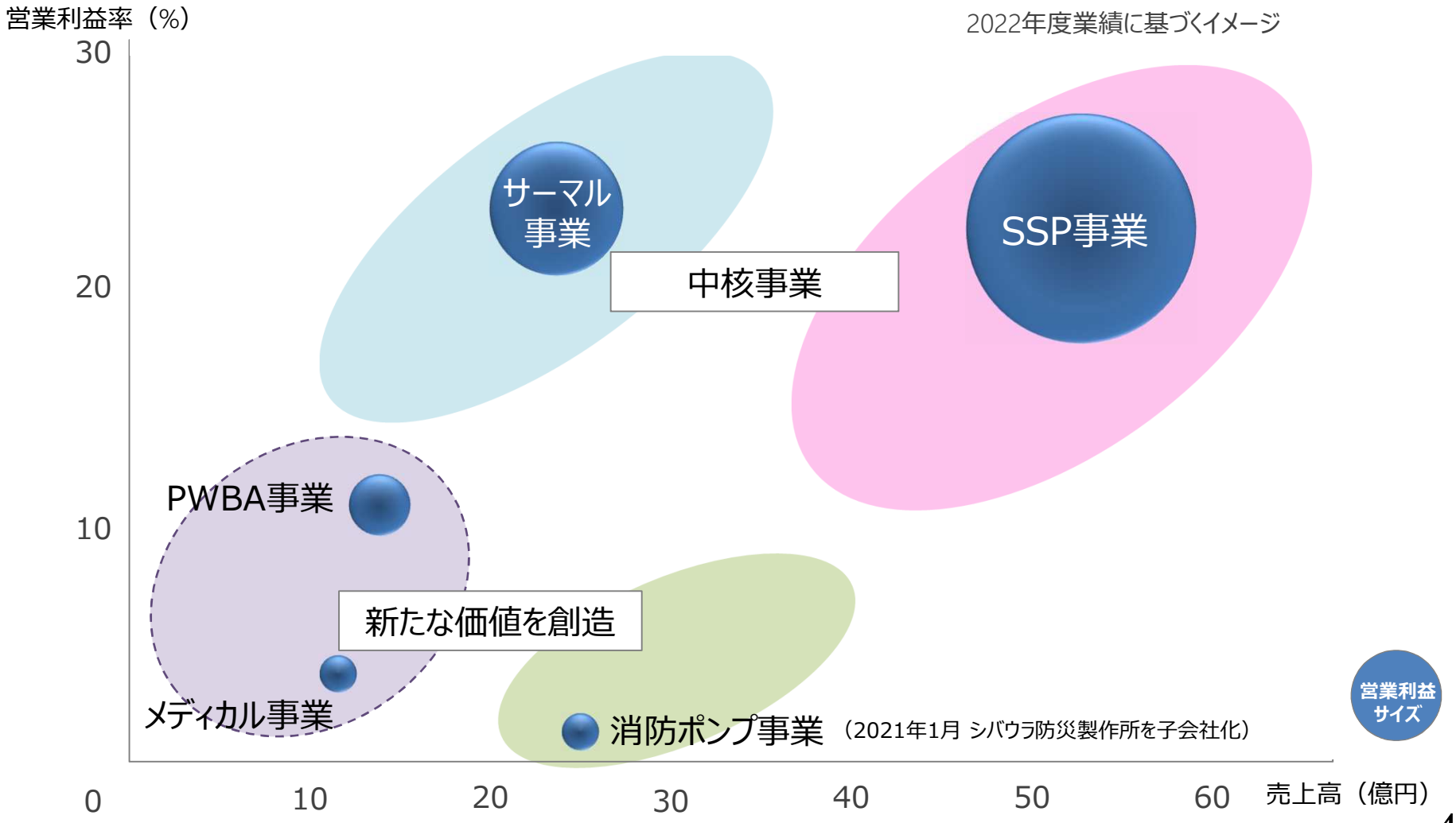
- 組織体制の再編整備
- 人財育成と適所適材
- 研究開発体制の強化

当社の提供価値

私たちは、熱制御をコア技術として、防災、半導体、医療など様々な事業領域において、
安心・安全な社会への貢献を果たすことを使命として「ものづくり」に取り組んでおります。

事業ポートフォリオ

FENWAL



1. 2022年12月期 決算概要

2022年度 通期の業績サマリー

FENWAL

前期比　売上高 +0.2%　営業利益 +3.1%　増収増益

業績項目	当期実績 実績	前年実績 実績	前年実績 前期比	当期予算 予算	当期予算 予算比
■ 受注	12,914	12,829	0.7%	12,690	1.8%
■ 売上	12,401	12,372	0.2%	12,109	2.4%
■ 売上総利益	4,045	3,902	3.7%	3,811	6.1%
■ 販管費	2,735	2,632	3.9%	2,700	1.3%
■ 営業利益	1,310	1,270	3.1%	1,111	17.9%
■ 営業外損益	168	67	149.5%	66	154.5%
■ 経常利益	1,479	1,338	10.5%	1,177	25.7%
■ 当期純利益	826	387	113.3%	440	87.7%
■ 1株当り純利益(円)	147.62	68.67	115.0%	78.61	87.8%
■ ROE	6.8%	3.3%	3.5Pt	3.7%	3.1Pt
■ EBITDAマージン	13.4%	13.3%	0.1Pt	12.5%	0.9Pt

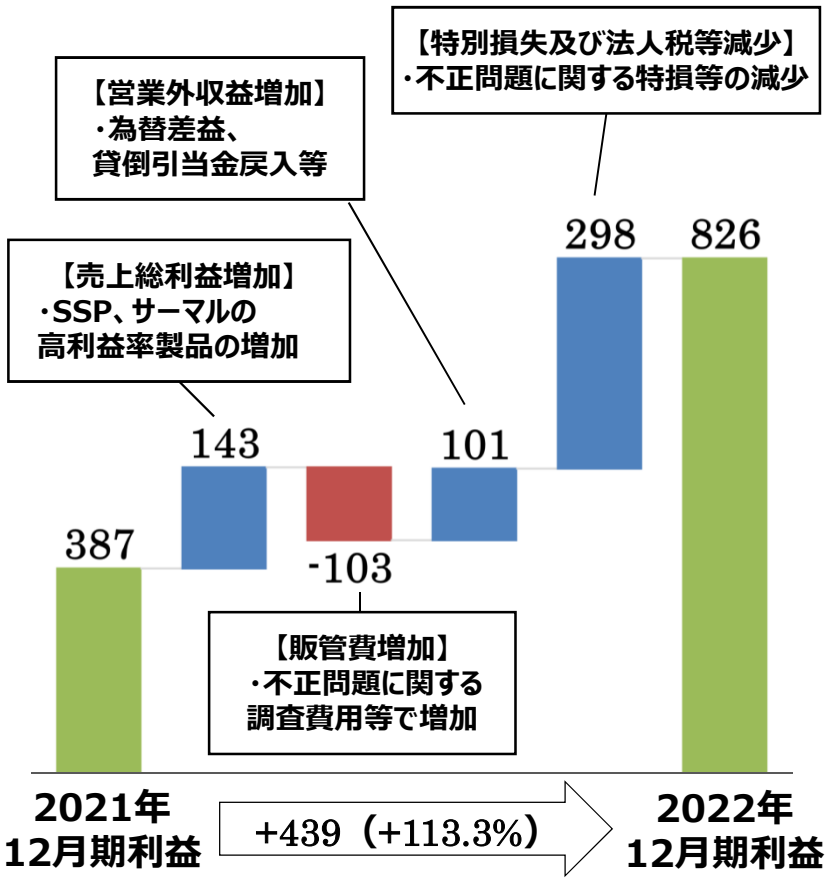
（百万円）

※予算は、2022年10月28日に開示しました通期業績予想の数値です

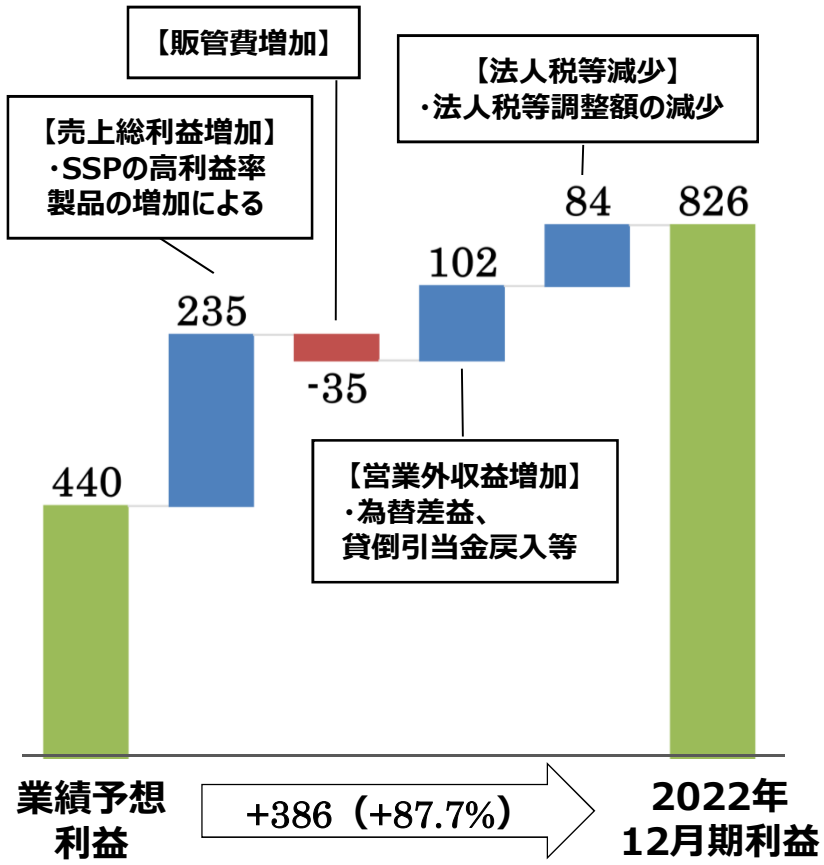
前期比および当期業績予想比 当期純利益増減要因

FENWAL

対前期比 （百万円）



対業績予想比 （百万円）

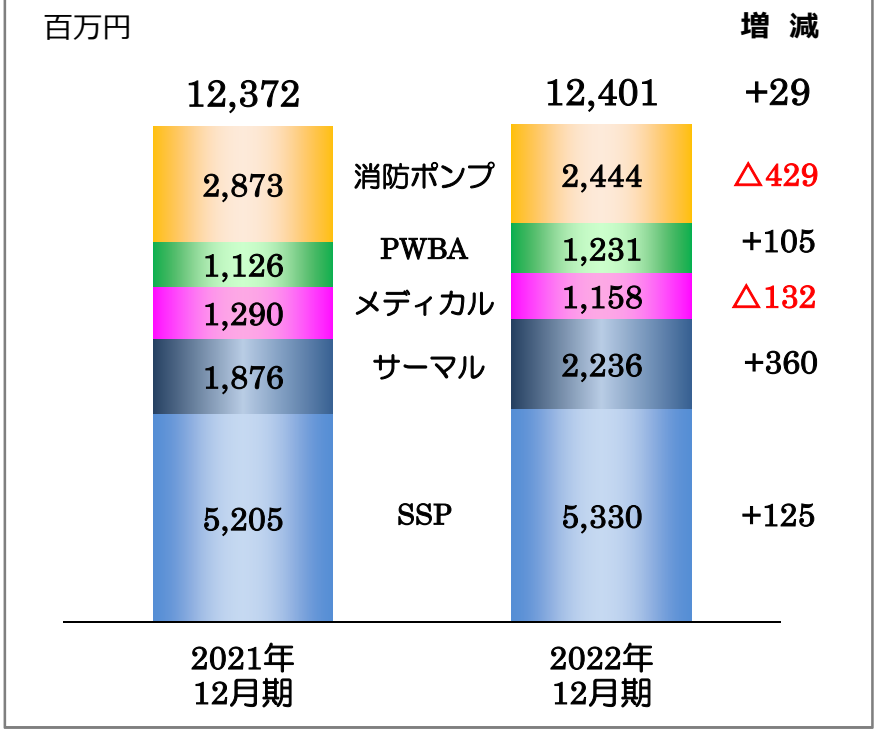


セグメント別実績

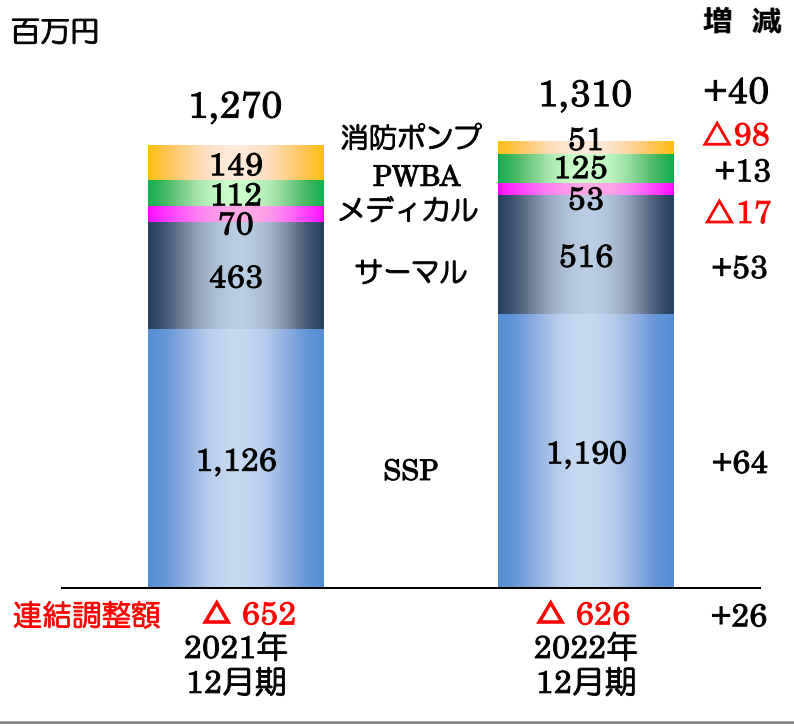
セグメント別増減明細

FENWAL

売上高の増減

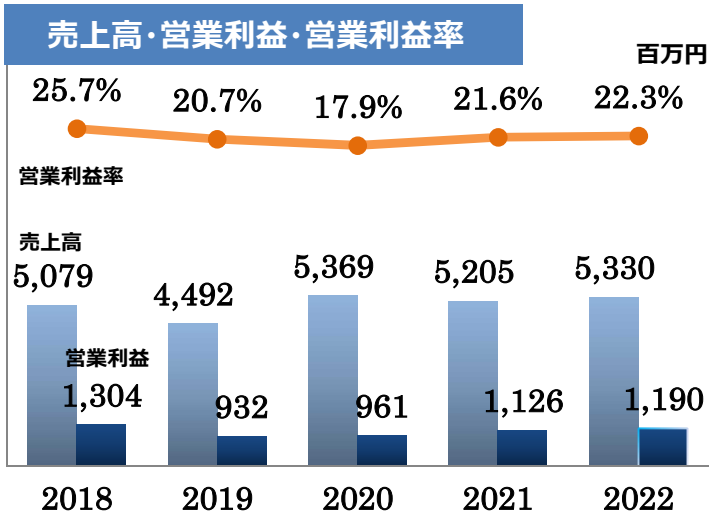


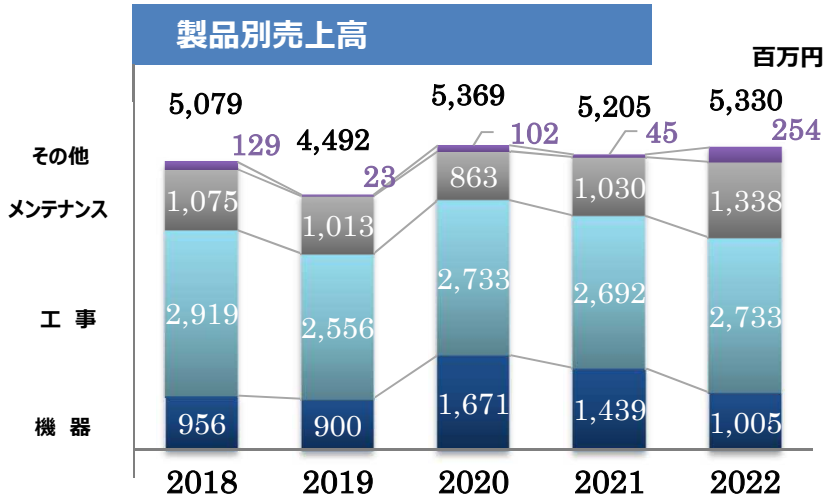
営業利益の増減



セグメント別売上高・営業利益　ＳＳＰ

FENWAL





SSP：前期比、売上高2.4%増、営業利益5.7%増と増収・増益

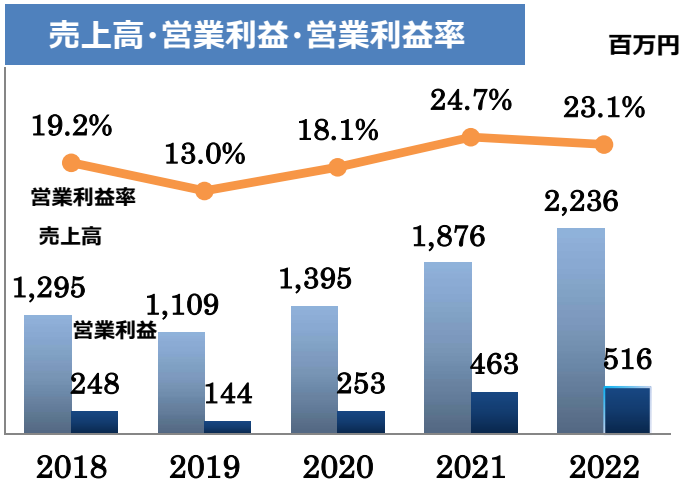
・特定顧客向けの警報・消火設備、半導体市場への産業用センサーの売上が堅調に推移

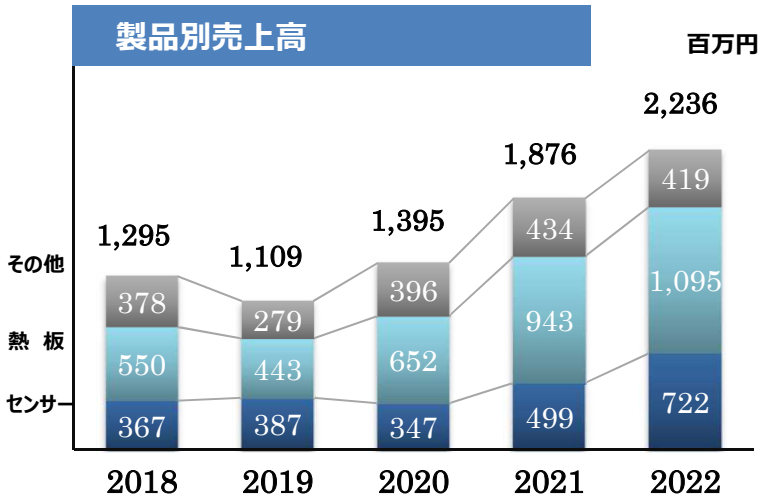
・不正問題により生産を停止していた製品の出荷再開等もあり、売上高は計画を上回る形で推移

・製品別では、工事及びメンテナンスは前期比で増加したが、機器は不正問題の影響で前期比減少

セグメント別売上高・営業利益　サーマル

FENWAL





サーマル：前期比、売上高19.2%増、営業利益11.4%増と増収・増益

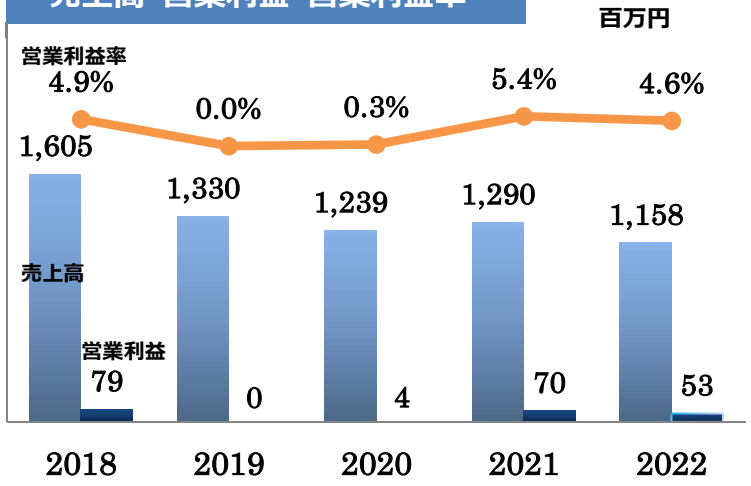
- 主力製品である半導体製造装置向け熱板及びセンサーの出荷が好調に推移
- 原材料の価格高騰に伴い利益率は減少
- 製品別では、温度調節器やサーモスイッチ等が前期比減少

セグメント別売上高・営業利益　メディカル・PWBA

FENWAL

メディカル部門

売上高・営業利益・営業利益率

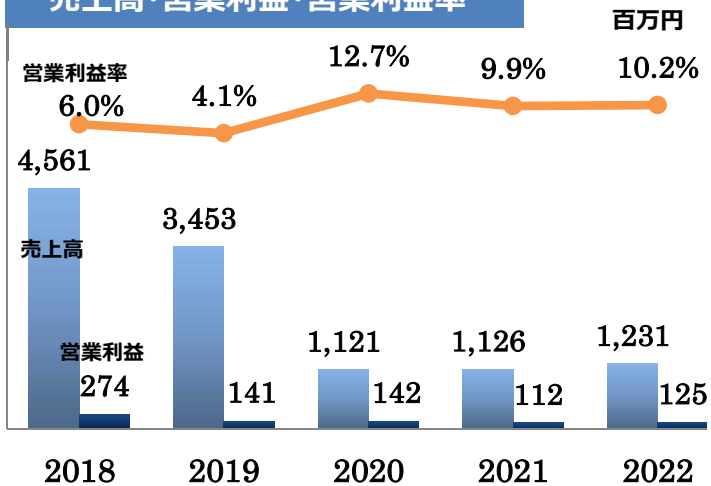


前期比、売上高10.2%減、営業利益24.3%減

- 新型コロナの長期化に伴う海外販売停滞による減少
- 客先の在庫調整等により出荷が減少
- 部品入手難等により供給リードタイムが長期化

PWBA部門

売上高・営業利益・営業利益率

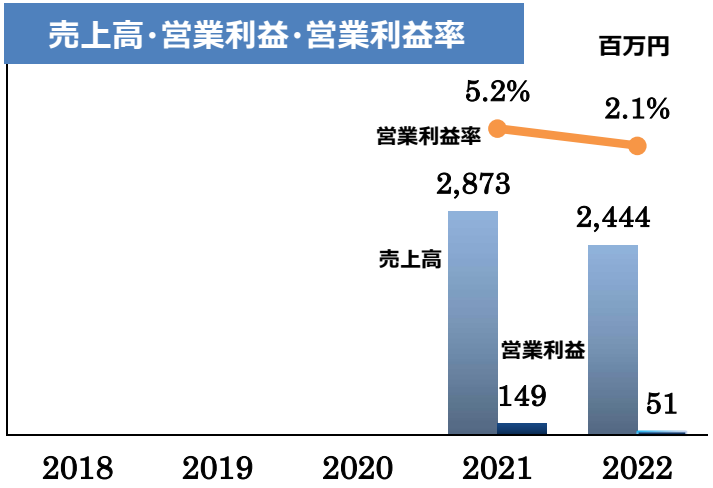


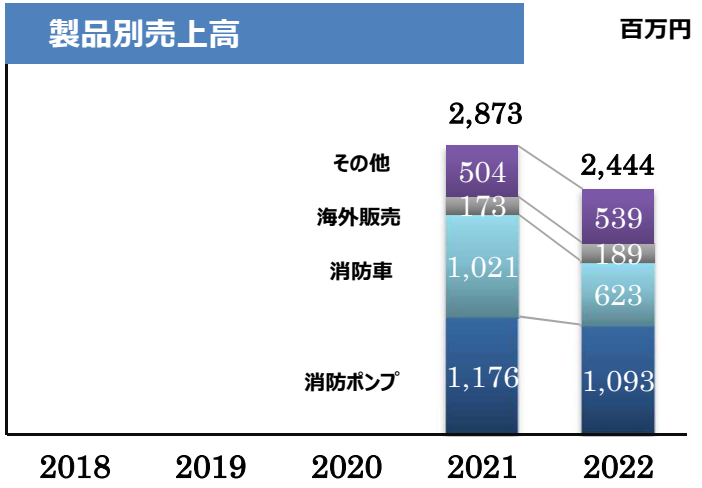
前期比、売上高9.3%増、営業利益11.6%増

- 医療機器、事務機器向けの回復により売上高は微増
- 電子部品不足の影響による生産リードタイムの長期化

セグメント別売上高・営業利益　消防ポンプ

FENWAL





※2021年1月にシバウラ防災製作所を買収し連結子会社化。

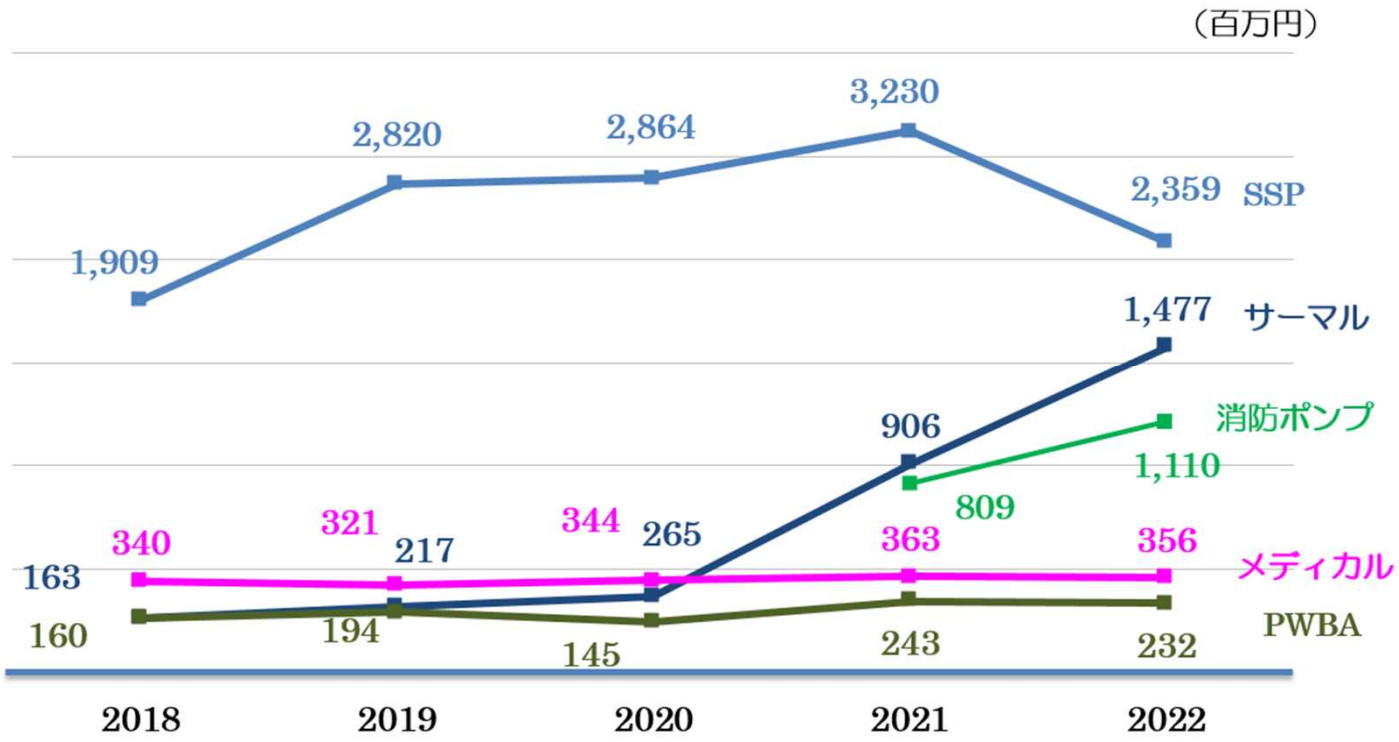
消防ポンプ：前期比、売上高14.9%減、営業利益は65.8%減と減収減益

- 受注高は国内市場向け消防車の大口受注等により好調に推移
- 売上高は新型コロナウィルス感染症の影響による官公庁の防災関連予算の縮小により減少
- 海外市場では中国・台湾向け消防ポンプが引き続き堅調に推移
- 海外販売（主に消防ポンプ）は前期比で増加したが、国内消防ポンプ・消防車は前期比大きく減少

セグメント別受注残高推移

FENWAL

・SSPは、不正問題に伴う営業活動停滞の影響等により減少
・サーマルは、半導体市場向けセンサーの先行受注による増加



2. 2023年度 通期連結業績見通し

2023年12月期 連結計画サマリー（増収減益）

FENWAL

売上は堅調に推移するものの、原材料価格高騰等により増収減益

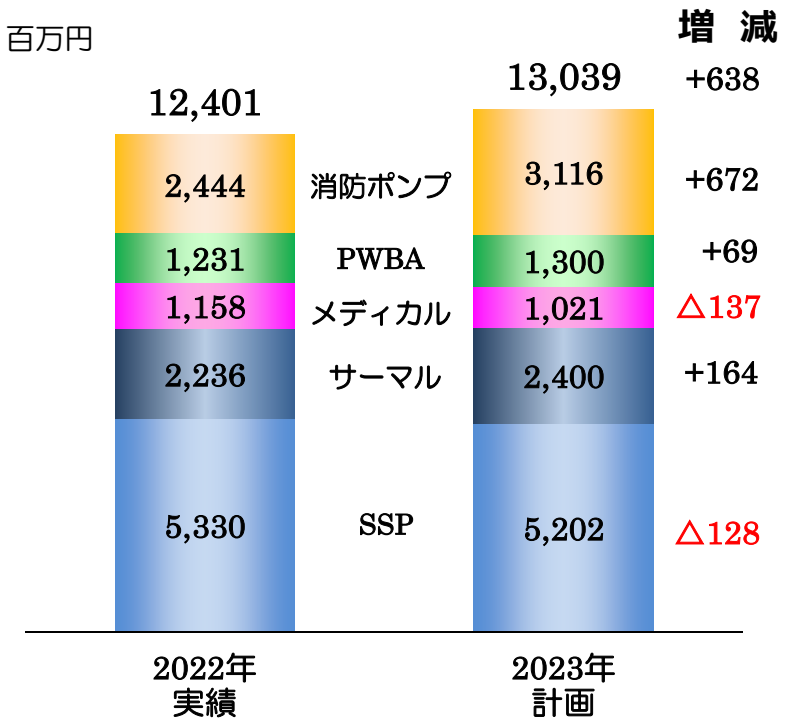
（百万円）

項目	計画項目 2023 予想	前期比 2022 実績	前期比 増減率
売上	13,039	12,401	5.1%
売上総利益	4,046	4,045	0.0%
販管費	2,790	2,735	2.0%
営業利益	1,255	1,310	△4.2%
営業外損益	54	168	△67.7%
経常利益	1,310	1,479	△11.4%
当期純利益	712	826	△13.8%
１株当り純利益(円)	127.09	147.62	△13.9%
ROE	6.0%	6.8%	△0.8Pt
EBITDA マージン	12.3%	13.4%	△1.1Pt

セグメント別増減明細

FENWAL

売上高の増減



【増収予想】
（ 前期比 +5.1%）

- SSP
  基幹産業及び特殊環境設備向け防災設備の需要の取り込み
- サーマル
  半導体製造向けセンサー、熱板の拡販と制御機器の応用製品の取り込み
- メディカル
  新たな装置需要の取り込みのための営業及び開発体制の強化
- PWBA
  新たな実装需要を取り込むための生産対応力の強化
- 消防ポンプ
  海外での拡販に注力

2023年度 配当・株主還元について

配当・株主還元方針

配当方針

・企業価値の向上のための積極的な投資を実施しつつ、安定的な配当を継続するためにDOE指標を採用する。

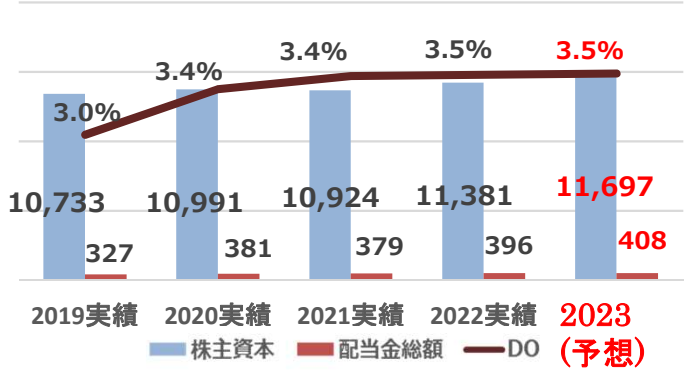
DOE 3.5％程度を目安

・株価水準、キャッシュフロー等を勘案し、自己株式取得による株主還元についても、機動的に対応する。

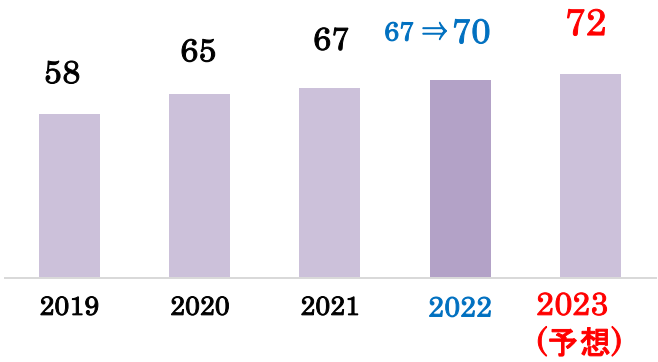
DOE3.5%：ROE７.0%×配当性向50%

年　度	2019	2020	2021	2022	2023 予想
当期純利益 (百万円)	526	585	387	826	712
配当性向(%)	64.6	62.7	97.6	47.4	56.6
DOE(%)	－	3.38	3.47	3.48	3.48

DOE推移　（百万円）



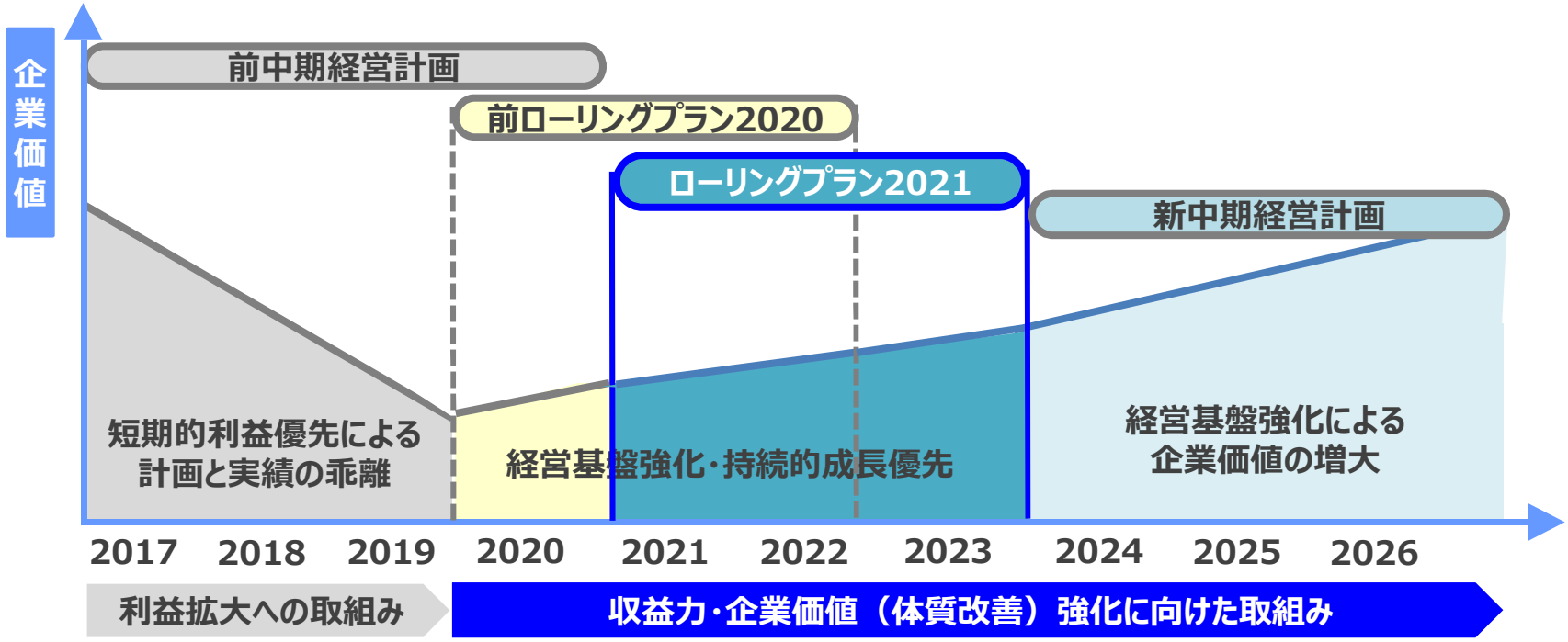
1 株当たりの配当金推移　（円）



3. 次期中期経営計画についての考え方

次期中期経営計画についての考え方

FENWAL



新ローリングプラン2021

Ⅰ. 持続的成長のための経営基盤強化を2023年まで継続する。
Ⅱ. 中核事業であるSSP事業の基盤強化のため、他社との提携を目指す。
Ⅲ. 新たな経営指標の設定と株主・社員還元の充実により魅力ある企業を目指す。

※本スライドは、弊社2021年2月25日発表「ローリングプラン2021」より抜粋

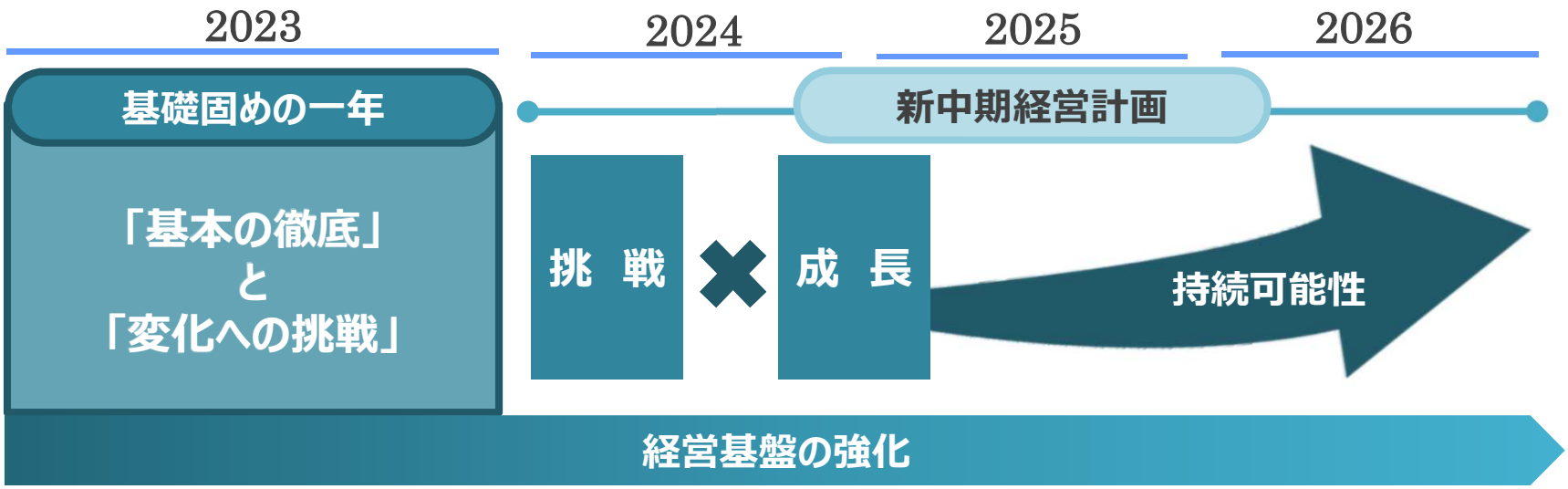
主な環境変化と対応

FENWAL

セグメント	主な環境変化	環境変化への対応
SSP	・不正製品の交換作業への優先対応 ・工事施工管理者等の不足による対応力の低下	・徹底した再発防止への取り組み ・組織見直しによる施工管理体制の強化
サーマル	・半導体市場向け製品が堅調に推移 ・熱制御技術に対するニーズの拡大	・生産能力増強による安定稼働 ・要素開発による受注拡大
メディカル	・輸出用透析装置の生産台数の大幅減少 ・生産性の低下による採算性の悪化	・営業体制の見直しによる新規取り込み強化 ・設計改良への対応と生産体制の見直し
PWBA	・基板実装製品需要は拡大傾向 ・電子部品の入手難と価格高騰	・事業間連携による受注活動の推進 ・資材調達部門の強化
消防ポンプ	・需要は安定しているものの国内市場は頭打ち ・動力技術の過渡期	・新たな市場の取り込みに向けたグループ連携 ・新たな製品開発に向けたグループ連携

新中期経営計画へ向けての取組み

FENWAL



挑　戦

- 人財育成の体制整備
- 要素技術の開発力強化
- 積極的な将来への投資

成　長

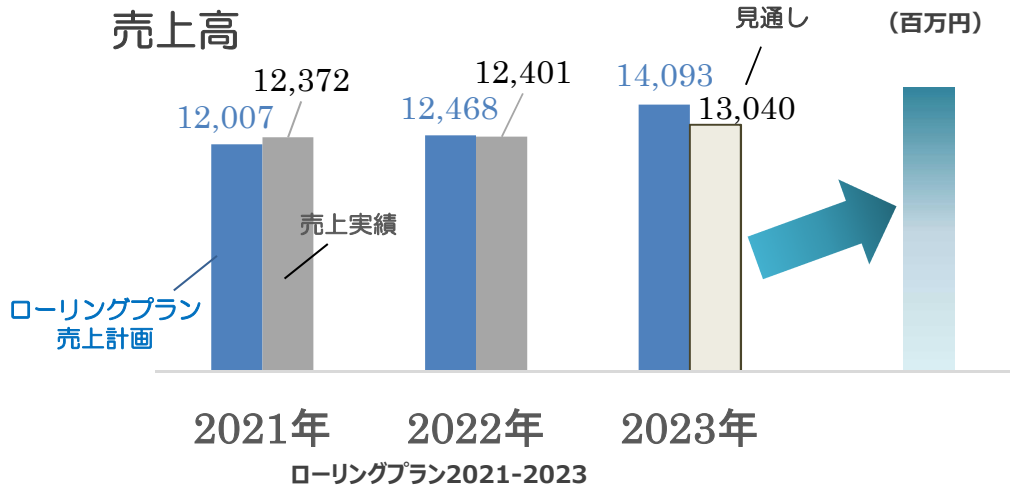
- 事業性評価による方向性の見極め
- 製品、サービスの品質の向上
- 既存優良顧客の固定化とシェア拡大
- サステナビリティを巡る課題への取り組み

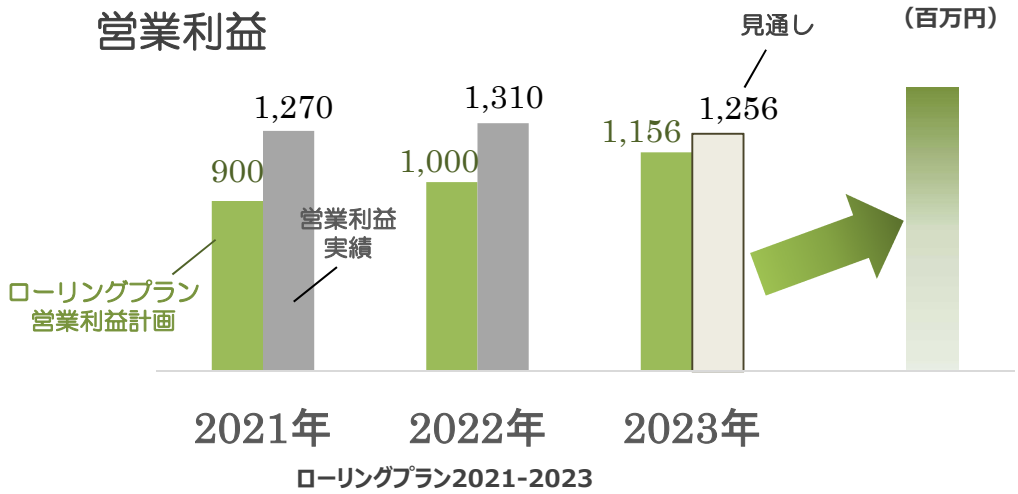
持続可能性

技術力を高め、高品質な製品、サービスの提供を通じて、お客様の課題を解決することで、社会の暮らしを豊かなものにする

新中期経営計画へ向けての取組み

FENWAL





【組織基盤づくり】

- 風土・意識改革
  目標の共有、位置ズレの矯正、
  人財育成　ほか
- 市場で戦える企業へ
  組織再編、機能強化、
  明確な役割定義の設定　ほか
- メーカとしての力を取り戻す
  開発投資、品質管理体制の強化　ほか
- 潜在ニーズの発掘
  マーケティング機能の強化、
  営業手法の拡大　ほか
- 収益構造を根本から見直す
  事業性評価、リスクの排除　ほか

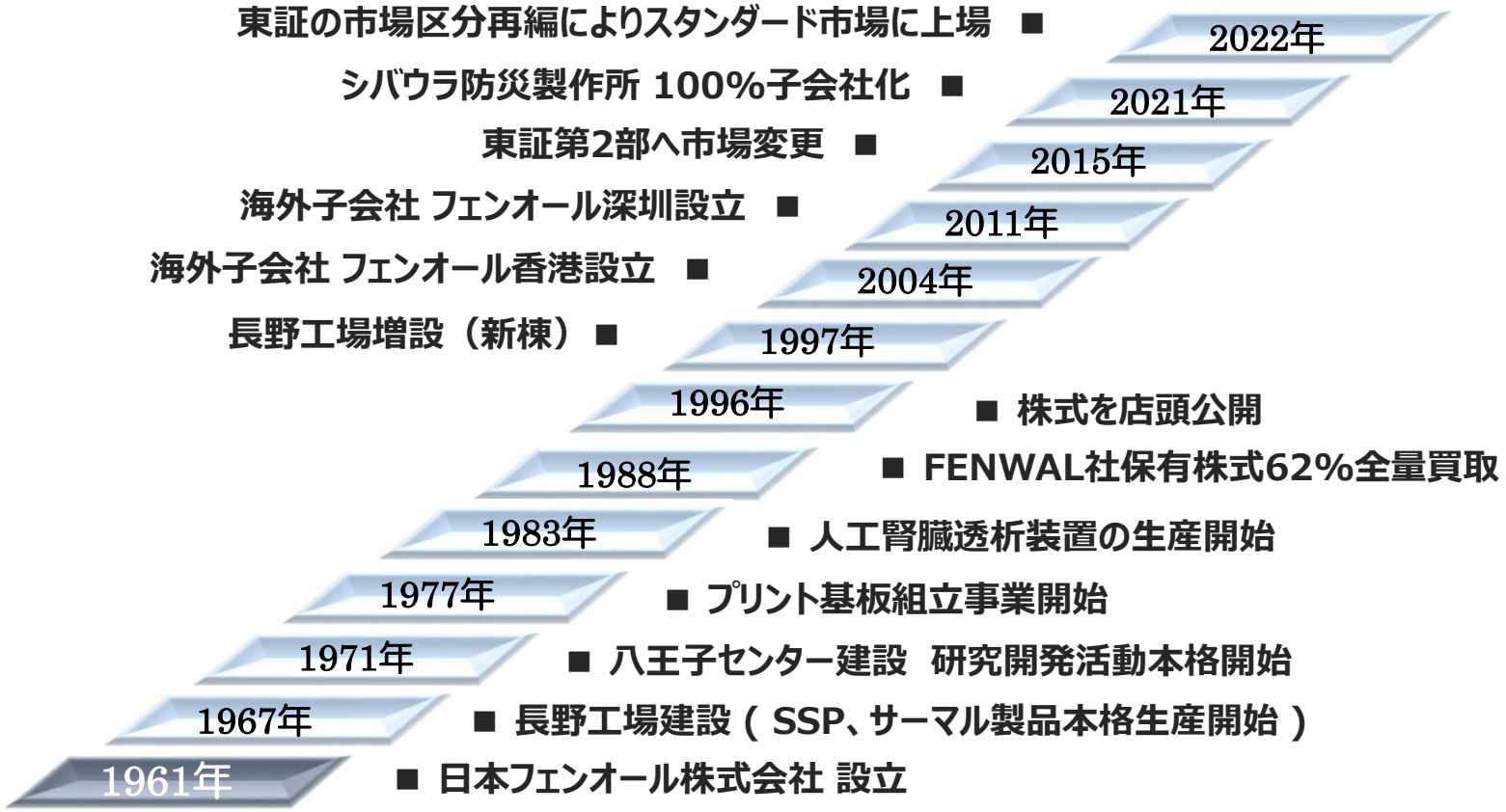
4. Appendix

会社概要

会　社　名	日本フェンオール株式会社
代　表　者	代表取締役社長　中野　誉将
設　立　日	1961 年 5 月 24 日
上　場　市　場	1996年　店頭登録、2015年　東証第2部へ市場変更、 2022年　東証スタンダード市場
資　本　金	996,600,000円
従　業　員　数	273名（連結）　（2022年12月末現在）
本　社　所　在　地	東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
事　業　内　容	・SSP（防災機器）　・サーマル（温度制御機器）　・メディカル（人工腎臓透析装置） ・PWBA （プリント基板実装）　・消防ポンプ（子会社）
大　株　主	・THE HONGKONG AND SHANGHAI BANKING CORPORATION LTD ・株式会社三井住友銀行 ・株式会社八十二銀行
取　引　銀　行	・三井住友銀行　・八十二銀行　・三井住友信託銀行　・三菱ＵＦＪ銀行
関　連　子　会　社	国内：株式会社シバウラ防災製作所 海外：・日本芬翁（香港）有限公司　・深圳芬翁信息咨詢有限公司

沿　革

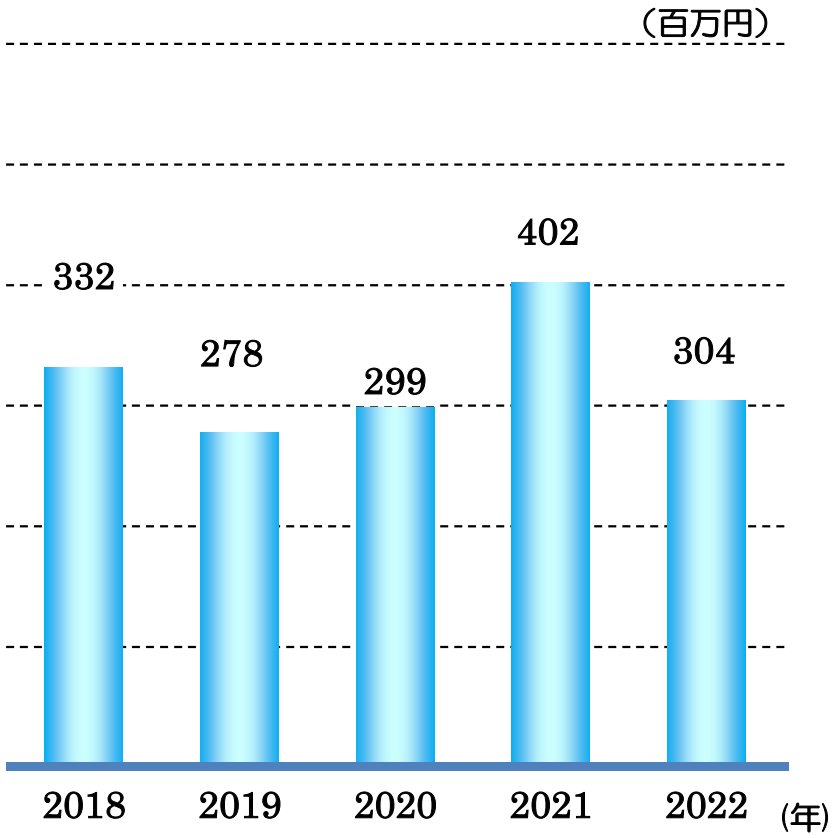
FENWAL


2022年
東証の市場区分再編によりスタンダード市場に上場 ■
2021年
シバウラ防災製作所 100%子会社化 ■
2015年
東証第2部へ市場変更 ■
2011年
海外子会社 フェンオール深圳設立 ■
2004年
海外子会社 フェンオール香港設立 ■
1997年
長野工場増設（新棟） ■
1996年
■ 株式を店頭公開
1988年
■ FENWAL社保有株式62%全量買取
1983年
■ 人工腎臓透析装置の生産開始
1977年
■ プリント基板組立事業開始
1971年
■ 八王子センター建設　研究開発活動本格開始
1967年
■ 長野工場建設（SSP、サーマル製品本格生産開始）
1961年
■ 日本フェンオール株式会社 設立

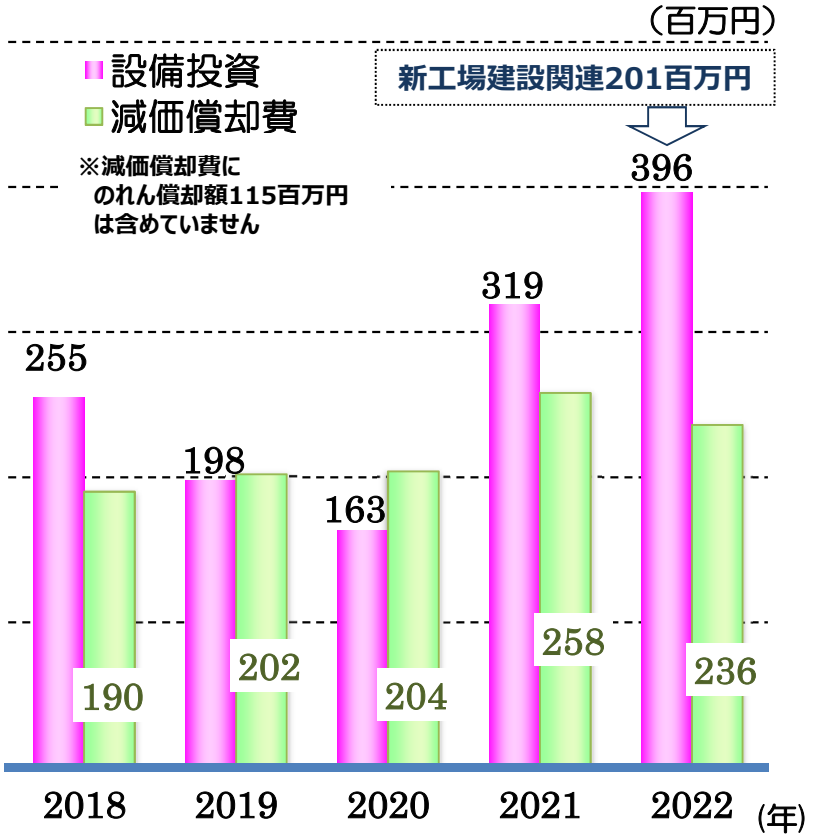
2022年度　投資概況

FENWAL

研究開発費



設備投資・減価償却費



2022年度　投資概況

FENWAL

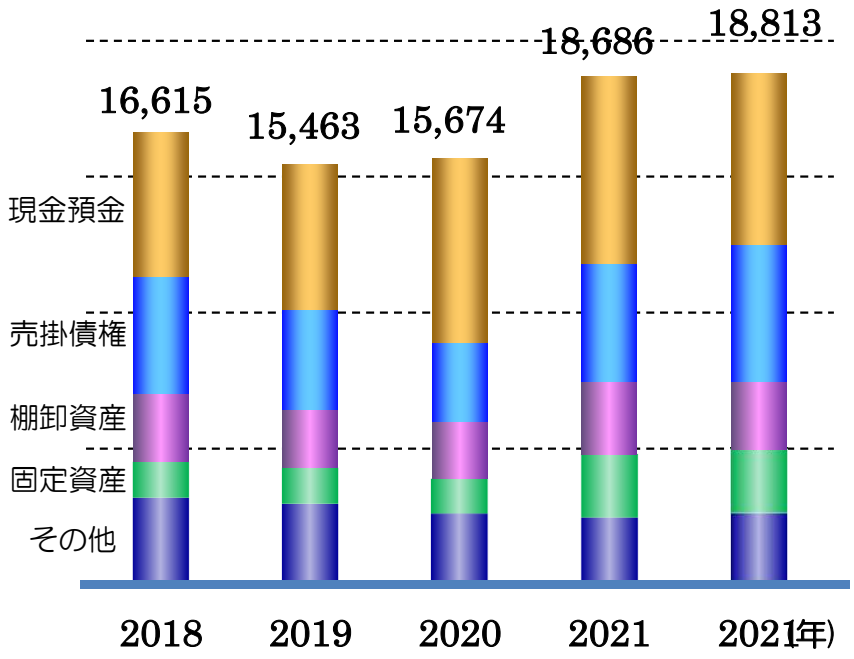
長野工場の隣接地にサーマル加工棟を建設（投資額201百万円）

2022年7月竣工

2022年度　連結貸借対照表(資産の部)

FENWAL

資 産 推 移



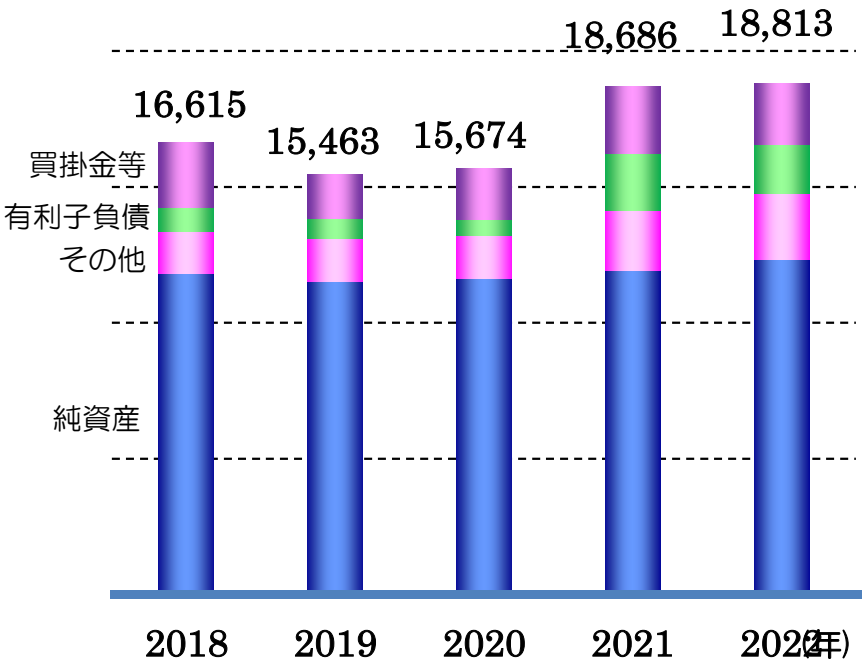
増 減 内 容　　（百万円）

項　目	当 期	前年度末	増減率
現金預金	6,316	6,890	△8.3%
売掛債権	5,023	4,333	15.9%
棚卸資産	2,496	2,697	△7.5%
固定資産	2,350	2,306	1.9%
そ の 他	2,626	2,457	6.9%
合　計	18,813	18,686	0.7%

2022年度　連結貸借対照表(負債・純資産の部)

FENWAL

負債・純資産推移



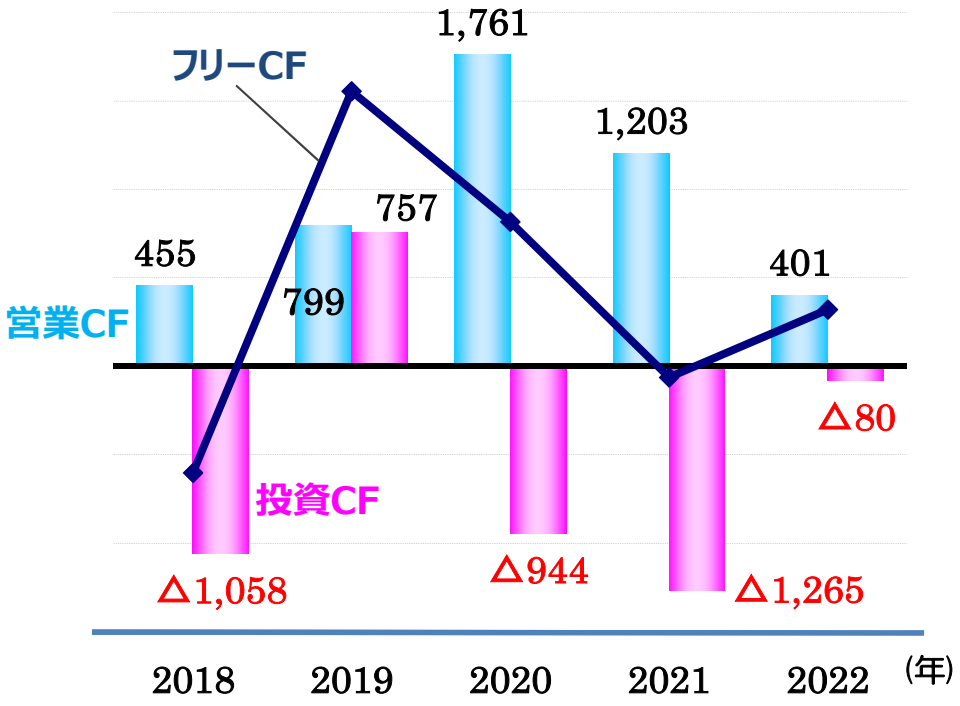
増減内容　　（百万円）

項　目	当 期	前年度末	増減率
買掛金等	2,269	2,455	△7.6%
有利子負債	1,782	2,114	△15.7%
その他	2,449	2,195	11.6%
純資産	12,312	11,921	3.3%
合　計	18,813	18,686	0.7%

2022年度　キャッシュ･フロー計算書

FENWAL

キャッシュ･フロー推移



増減内容　　（百万円）

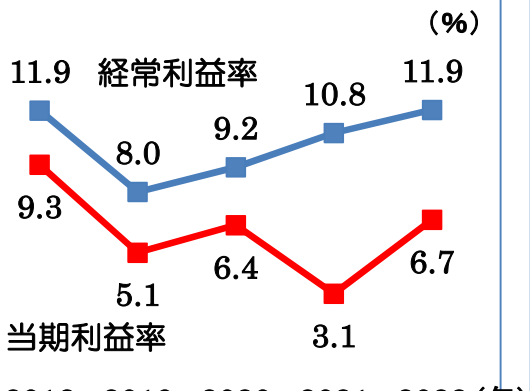
項　目	当 期	前 期	増減率
営業CF	401	1,203	△66.7%
投資CF	△80	△1,265	△93.7%
財務CF	△714	226	―
換算差額	41	49	△16.3%
合　計	△352	212	―
期首残高	5,740	5,527	3.9%
期末残高	5,387	5,740	△6.1%

フリーCF	320	△62	―

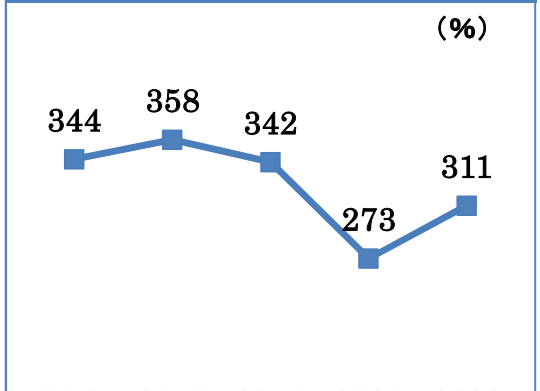
財務指標

FENWAL

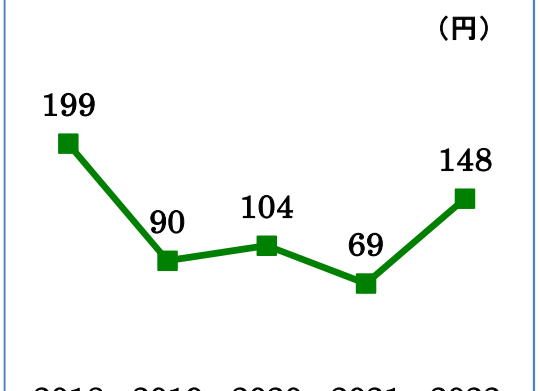
売上高利益率



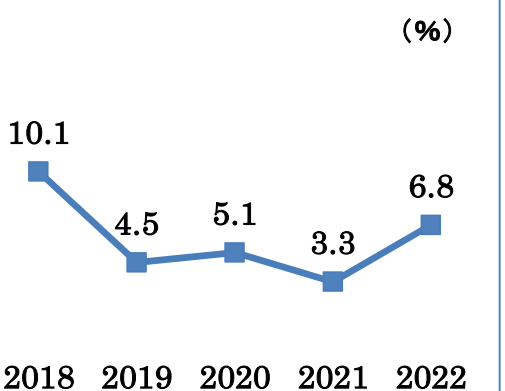
流動比率



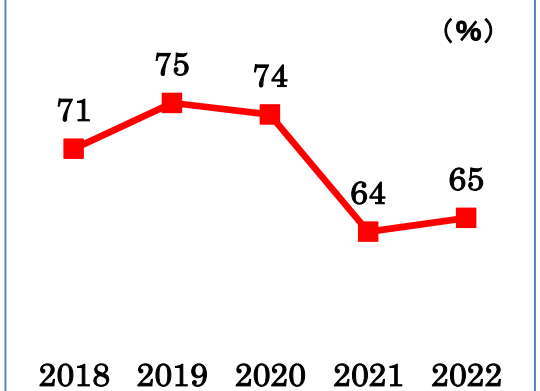
1株当り純利益



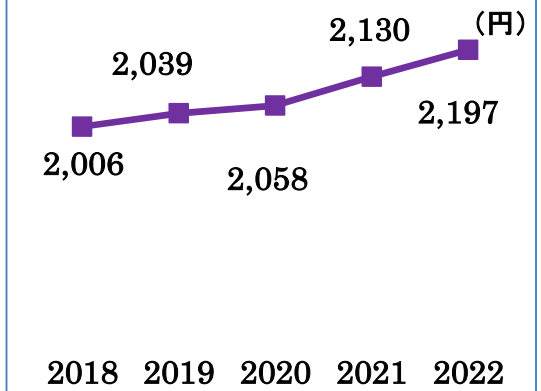
自己資本利益率



自己資本比率



1株当り純資産



■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

日本フェンオール株式会社
理事 管理統括部長　中島 昭
E-mail：akira.nakashima@fenwal.co.jp
住　所：〒102-0072
東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号
電　話：03-3237-3561